

石原莞爾略歴

西暦	経歴	関連写真
一八八九(明治二二)	山形県鶴岡市に出生。	
一九〇二(明治三〇)	仙台陸軍地方幼年学校に入校。	
一九〇七(明治四〇)	陸軍士官学校へ入校。※	※青年将校時代
一九一五(大正四)	陸軍大学校に入校。	
一九一九(大正九)	歩兵大尉中隊長に就任。 教育総監部で勤務	
一九二二(大正一一)	ドイツへの出張を命じられる。軍事学研究を目的としたもの。	
一九二四(大正二三)	ドイツから帰国し、陸軍大学校兵学教官に就任。	※歩兵第四連隊長時代
一九二八(昭和三)	関東軍参謀に就任。	
一九三一(昭和六)	満州事変勃発。参謀として活躍。	
一九三三(昭和八)	歩兵第四連隊長に就任。※	
一九三五(昭和一〇)	参謀本部作戦課長に就任。	
一九三七(昭和一二)	参謀本部第一部長に就任。 関東軍参謀副部長に就任。	
一九三八(昭和一三)	予備役編入を願い出て満州から帰国。	※陸軍引退後
一九三九(昭和一四)	中将として留守第十六師団司令部になり、同年に第十六師団長に就任。	
一九四一(昭和一六)	立命館大学教授に就任。また国防学研究所長にも就任。※	
一九四二(昭和一七)	立命館大学を辞す。その後故郷の鶴岡市に移住。	
一九四七(昭和二二)	極東国際軍事裁判に酒田出張法廷に証人として出廷。	
一九四九(昭和二四)	山形県飽海郡西山に没す、数え年六一歳。	



出典はいずれも横山臣平著『東条と対立した悲劇の予言者石原莞爾の素顔』一九八三年、芙蓉書房